

昭和56年度春季大会・第35回通常総会の概況

▶ 第35回通常総会

日 時：昭和56年5月20日（水）14：25～15：30
会 場：東条会館 ホール

高橋会長を議長に推し、常任理事より本日の出席正会員数並びに委任状提出正会員数を報告、議長より定款第30条の定めるところにより、第35回通常総会成立の旨を告げた。議事に先立ち高橋会長の挨拶があつた後、議案の審議に入った。

出席正会員：85名

委任状提出正会員：7,991名

（昭和56年3月31日現在の正会員数：15,813名）

・第1号議案：昭和55年度事業報告の件

高橋議長の指名により、中塚総務担当理事から資料にもとづき昭和55年度事業報告が行われた。

・第2号議案：昭和55年度決算報告の件

高橋議長の指名により、新木会計担当理事から資料にもとづき一般会計、出版会計、規格会計及び特別会計の各会計について決算報告が行われた。

次いで、昭和55年度業務及び会計について 稲川、尾野尚監事が昭和55年5月8日に監査を行った結果、いずれも適法かつ正確であることを認めた旨稲川監事から報告があつた。

議長、以上2件について賛否を諮つたところ、全員異議なく承認された。

・第3号議案：昭和56年度事業計画の件

高橋議長の指名により、田中総務担当理事から昭和56年度事業計画（案）にもとづき説明が行われた。

議長、これについて賛否を諮つたところ、全員異議なく原案どおり承認された。

・第4号議案：昭和56年度予算の件

高橋議長の指名により、天野会計担当理事から昭和56年度予算表（案）にもとづき各会計について説明が行われた。

議長、これについて賛否を諮つたところ、全員異議なく原案どおり承認された。

・第5号議案：会費改定の件

高橋議長の指名により、田中総務担当理事から会費改定（案）にもとづき会費改定の趣旨及び内容について説明が行われた。

議長、これについて賛否を諮つたところ、全員異議なく原案どおり承認された。

・第6号議案：入会金及び会費徴収規則一部改正の件

高橋議長の指名により、田中総務担当理事から入会金及び会費徴収規則の一部改正（案）にもとづき、改正の必要性と内容の説明が行われた。

議長、これについて賛否を諮つたところ、全員異議なく原案どおり承認された。

・第7号議案：名誉会員推薦の件

高橋議長より、去る4月17日開催の第6回理事会及び第2回評議員会の承認にもとづき、次の3会員の名誉会員推薦を諮つたところ、満場一致で推薦された。

名誉会員 豊田章一郎
" 人東 俊一
" 平尾 取

高橋会長より、各名誉会員に記念品を贈呈され、代表して豊田名誉会員から挨拶が行われた。

▶ 第31回自動車技術会賞授賞式

5月20日（水）15：30～16：00 東条会館ホール

授賞式は高橋会長の挨拶に引き続き田中総務担当理事から選考経過報告が行われた後、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、斎藤賞及び中川賞が授与された。

《浅原賞学術奨励賞》

(1) 平均吸気マッハ数による4サイクル機関の容積効率の整理

(受賞者) 渡部 英一君

昭和35年慶応義塾大学工学部機械工学科卒、職業訓練大学校運輸装置科助教授

福谷 格君

昭和43年職業訓練大学校運輸装置科卒、職業訓練大学校運輸装置科講師

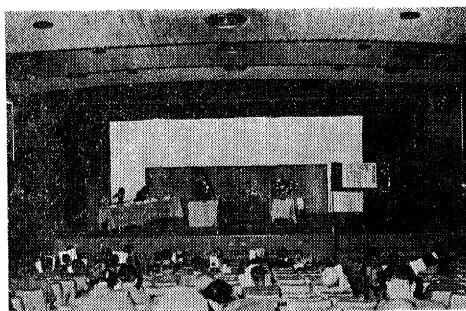
(授賞の理由)

「平均吸気マッハ数による4サイクル機関の容積効率の整理」と題する論文において、4サイクル機関の容積効率を支配する特性値として、「平均吸気マッハ数」が用いられるべきものであることを厳密な理論と膨大な実験の面から明らかにしたもので、その成果は高く評価されている。

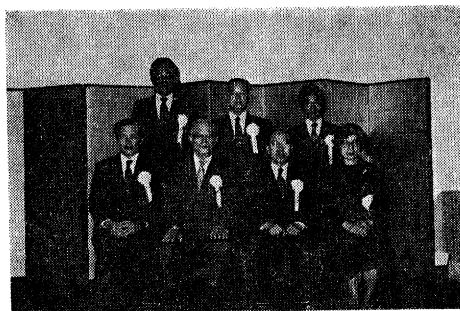
なお、渡部英一君は基本的発想と理論的考察を、福谷 格君は実験的解析を担当したものである。

(2) 訓練用自動車シミュレータに関する研究

(受賞者) 永田 雅美君



第35回通常総会



第31回自動車技術会賞授賞者

昭和43年職業訓練大学校運輸装置科卒。職業訓練大学校運輸装置科講師
(授賞の理由)

「訓練用自動車シミュレータ」と題する論文において、シミュレーションとして不可欠の加速度感覚の模擬方法を追求し、その研究成果が高く評価されることはもとより、将来に向かって操舵訓練方法のための注視行動の研究成果が大いに期待されるところである。

◀浅原賞技術功労賞▶

(1) 自動車用各種デジタル測定機器、特にシャシダイナモメータの開発による自動車工業への貢献

(受賞者) 小野 雅道君

昭和25年落合中学校卒。(株)小野潤器取締役工場長
(授賞の理由)

自動車の研究開発に必須な各種デジタル計測装置を永年に亘り開発実用化され、自動車技術の向上発展に寄与してこられた。特に排出ガスや燃費の試験研究に不可欠なロード・ロードを高い精度でシャシダイナモ上に再現させるための、デジタルシステムからなる検出制御装置、分析装置を開発される等、同君の自動車研究用諸デジタル機器に重点をおいた研究の自動車技術への貢献は大きなものがある。

(2) 外国自動車技術文献を通じて技術の進歩向上に貢献した永年の功績

(受賞者) 松下 英夫君

昭和9年京都大学工学部機械工学科卒。元日産自動車(株)
(授賞の理由)

「外国自動車技術文献抄録」の編集発行については、当初からその企画に参画され「抄録誌刊行委員会」の設置を経て、昭和48年第1号の発行以来13年に亘って継続・発刊に尽力された。

各社協力分担された全抄録文を、最終的には同君自身がその技術的内容を検討され、専門的立場からこれを分類し、これの編集刊行によつて技術情報の速報性と技術者の質の向上のため、異色の分野で地道な努力を傾けてこられた。

また、本抄録を分担した若手の技術者の技術力の向上、視野の拡大に資した点は大きく、その功績は高く評価されている。

◀齋藤賞▶

人・社会・環境のかかわりにおける人間——自動車系の特性を含めた自動車性能論の体系化による自動車工学技術の進歩・発達への貢献

(受賞者) 平尾 収君

昭和14年東京大学工学部機械工学科卒。東京大学名誉教授。自在研究所教授
(授賞の理由)

永年に亘る幅広い研究活動、特に自動車技術会の各種研究委員会等を通じて得られた自動車動力性能及び走行性能に関する多くの研究成果の、内外の自動車、工学の進歩への貢献は誠に大きなものがある。

特に、人間——自動車系に関する研究については「微分ハンドル」の研究をはじめとし、数多くの論文が発表され、交通体系の中で人間——自動車系を閉ループ制御系としてとらえ、予防安全の見地から交通システム論まで発展させている。

また、同君の低公害、資源、燃料に関する研究も高く評価されている。

同君は、研究の推進に当たり、常に時代の要請を先取りし、創造性豊かにこれに取り組み、かつ学術的協力の必要な課題に対しては、多方面の能力人材を有効に組織化するとともに、これらの活動を通じて人材の養成に努め、自動車工学の体系的結実寄与した功績は、極めて大なるものがある。

◀中川賞▶

国産乗用車技術の向上とガスタービン乗用車の研究・開発
(受賞者) 中村 健也君

昭和9年長岡高等工業学校電気工学科卒。元トヨタ自動車工業(株)
(授賞の理由)

同君は永年に亘り、車体加工技術の研究開発に尽力し、特に純国産技術による小型乗用車の開発に当たっては、卓越した製造技術開発能力を基盤とし、これに独創的な新機構を大胆に採用して、国際水準をゆく乗用車を実現させた。

また、同君は自動車産業の将来を見通し、昭和39年より新動力源の一つとしてガスタービンの研究開発に着手し、数多くの新機構を開発採用してきている。

この研究・開発の一部は、政府の重要研究開発プログラムの一翼を担い、国民経済への寄与を図るとともに、発表された技術論文は、国際ガスタービン会議においても評価されているところである。

このように、常に豊かな創造性をもつて未開拓分野に挑戦し、即物実践的な研究開発により、自動車技術の進歩発達に果たした功績は誠に顕著である。

▶特別講演会

5月20日(水) 16:20~17:20 東条会館ホールにおいて、第31回自動車技術会賞(浅原賞学術奨励賞)を受賞した福谷 格君及び永田雅美君の両君による特別講演が行われた。

▶懇親会

5月20日(水) 17:30~19:00 東条会館5階クリスタルルームにおいて140名余の参加者を得て盛況のうちに行われた。高橋会長の挨拶に続いて長尾名誉会員の乾杯の音頭により幕を開き、和やかに会員相互の親睦を深め、荒牧名誉会員の方歳三唱により閉会した。

▶学術講演会

5月20日(水) 東条会館ホール(09:30~14:05)、5月21日(木)5階スタールーム(09:30~14:45)及び3階橋の間(09:30~14:20)において、20講演が発表された。

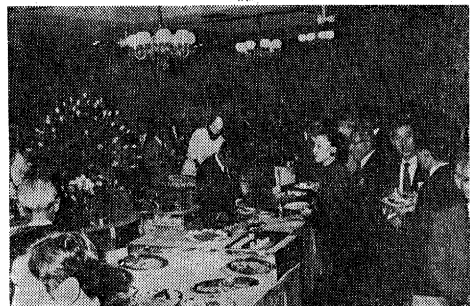
(講演発表題目は本誌No.5, 1981, p.543.に掲載)

座長は次の各氏が担当された。

中川泰彦(日産)、酒井 宏(東大)、五味 努(上智大)、大野進一(東大)、岩元貞雄(自動車研究所)、平田利英(農工大)、梅沢清彦(東工大)、宝路幸男(広島大)、山川淑夫(トヨタ自工)

▶研究懇親会

5月21日(木) 14:45~16:30 東条会館3階桃李の間におい



懇親会